

## 第2回兵庫県公立大学法人評価委員会

### 1 日時等

- (1) 日時 令和7年7月29日(火) 10:00~11:00
- (2) 場所 兵庫県庁2号館5階庁議室

### 2 出席者

- (1) 評価委員：中村委員長、田中委員、巳波委員、米田委員
- (2) 県：木村理事、有田総務部長、増澤総務部次長、井上大学振興官、辻大学振興班主幹

### 3 内 容

- ・第二期中期目標期間の業務実績に対する評価について
- ・その他

### 4 意見交換の概要（発言者 ●：委員、○：法人又は事務局）

○第1回評価委員会において、法人からの聞き取りや意見交換を踏まえ、法人退席後、委員会としての評価について審議いただいた。その際に疑義のあった点、法人に再度確認が必要となった点を、事務局が確認を行い、評価案に修正を加えた。

芸観大の教育に関する措置の法人評価 a の3項目について、どの項目が特に計画を上回っていたか、概ね計画どおりだったか、記載内容ではわかりにくいところ意見をいただいていた。大学に聞き取りを行い、評価できる点を再度整理した。

「芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成」

- ①評価指標の「授業評価アンケートにおける学生理解度」は、目標を超えていること。特に令和5年度は目標80%に対し95%となったこと。
- ②リヨン国立芸術技術学校との共同作品制作では、キャスト、演出助手、舞台監督など舞台製作に必要な要素を両大学の学生が合同で行い、極めて高度なアクティブラーニングの実践の場となったこと。
- ・これらの内容を考慮し、当初の計画を上回る実績があったと評価でき、自己評価のAに相当するのではないかと考える。

「地域活性化に貢献する専門職業人の育成」

- ①地元カバン企業で臨地実習を行った学生の提案で阪神タイガースの応援グッズを商品化し、令和5年度から阪神梅田本店、京王百貨店で販売されたこと。
- ②豊岡市が策定している「但馬定住圏共生ビジョン」の成果指標である「但馬地域への就職者数が芸観大から毎年8人」という内容も達成していること。
- ③地域と連携した実践的な実習が行われ、学生の地域への愛着や意識醸成が行われた成果として、但馬地域への高い就職率に繋がったこと。

- ・これらの実績と、地域への貢献という部分は芸観大の柱であることも踏まえ、自己評価のAに相当するのではないかと考える。

#### 「世界に通じる専門職業人の育成」

- ①評価指標「海外大学との協定」を進め、目標 10 に対し 11 となったこと。
- ②令和 5 年度から交換留学生の本格的な受入を開始し、学生寮での共同生活や交流会などから国際交流の機会提供が進んでいること。
- ③語学研修や海外実習を希望する学生への費用支援を行い、令和 6 年度から理事裁量経費からの上乗せ支援も行っていること。
- ・一方で、中期計画で掲げている「英語以外の多言語教育の推進」については、共通教育科目での実施に留まっており、特に取組が進んでいない。
- ・評価指標と定性的な取組も含めると、トータルで「概ね計画どおり」と判断でき、法人自己評価は a だが、評価案は B に相当するのではないかと考える。

#### 「コンプライアンスの推進」

- ・科研費詐欺事案については、前回の委員会でのご意見を踏まえ、評価の記述に「複数年に亘る」という文言の追加、「詐欺の発生」を「詐欺の発覚」に文言を修正、「法人全体で重く受け止め猛省されたい」という文言を追加した。
- ・法人自己評価は b だが、委員各位のご意見を踏まえ、低い評価としている。項目全体としては、地震や感染症を想定した危機管理体制の確保や、情報セキュリティ対策などの取組も踏まえ、全体の評価案は C とした。

- 前回の内容が反映されているため特に意見はないが、法人の報告は非正規職員、評価案は非正規嘱託員となっている。どちらかに合わせておく方がいいのでは。

○文言の統一をしておく。

- 芸観大の地域と連携を図りながら課題解決を推進する実習プログラムが、全国でも稀有な取り組みとあるが、稀有であるか。少ないとは思いますが、カリキュラムに含め取組もうとしている大学はある。表現をもう少し緩めていいのでは。

- 稀有というのは、表現として勇み足と思うので、表現を緩めていいかもしれない。

- 検討項目と別になるが、芸観大第 1 期生 80 人のうち 20 人程の留年者について、このカリキュラムだとある程度、留年生が出るのは仕方ないという印象だった。前回の委員会で平田学長から、留年生の多さについては留学など前向きな理由とあったが、大学の教育面でみると、留年生には何らかのケアが必要と考える。留年 1 年目は仲間が卒業し孤立しがちであるため「留年者等含めこれまで通り学生のケアをお願いしたい」という文言を評価書に記載してはどうか。

●ケアをするということについての記載に異論なし。大学無償化について、留年生についてはどのような対応か。

○留年や卒業できないことが確定した時点で、無償化の対象から外れる。学業状況と考慮するが、国の就学支援制度と同じような取り扱いをしている。

●留年生等のケアをこれまで通りお願いしたいという内容で評価書に補足をお願いしたい。留年生は授業料が発生し、学生の保護者にも影響があるため、大学として何か対応しないといけないのでは。

○留年率で補足すると、カリキュラムが非常に厳しいことが留年が発生している1つの要因。開学から4年経ち、授業の改善やカリキュラムの見直しも図っており、大学としてその点はケアしている。

●大学は文科省に報告を出すはずなので、その際にケアについてのことは同様に指摘があると想定する。そのため、評価書内で記載しておいた方がよい。

●留年生のケアについて、評価案に追記することに同意する。

○全体評価は前回から2ヶ所追記している。46 ページ、評価のポイントのコンプライアンスの推進について、科研費詐取事案について追記した。47 ページ、引き続き取り組むべき課題として「両大学間の人材育成にかかる連携」を追記した。カリキュラムや学期制の違いなど、連携の難しい面はある一方で、当初に法人が想定していた連携ができないかという意見があり追記した。

●芸観大の「世界に通じる専門職業人の育成について」の評価で、英語以外の韓国語や中国語など、特定の言語があげられているが意図はあるか。他の言語もあるので「英語以外の多言語教育の推進に取り組まれないか」でよいのではないか。

○韓国語、中国語を加えた理由は、第三期中期計画で、大学が具体的に韓国語や中国語などの教育を推進すると掲げているため、次期に向けてこの言葉を入れた。ただ、第二期中期計画では、具体的に韓国語や中国語という言葉は出ていないため、今回の評価に入れるのが適当かは、ご意見いただきたい。

●世界各国との連携を進めていく中、特定の言語を推進するように見えるので気になった。

●第二期中期計画でも英語以外の多言語教育と記載されているため、それでよいのではないか。

●フランスやドイツなどと交流を進めているため、大学の取組を世界に発信できるように、特定の国だけでなく、広く多言語教育を推進してもらえればと思う。

●では、第二期中期計画通りの文言で、「英語以外の多言語教育の推進に取り組まれない」という評価とする。